



みなさんの元気な笑顔に出会うことができました

1に健康、2に健康、3・4がなくて5に達者。

「サロン・あべの」12月の出会い

平成19年12月1日(土)「サロン

」に、こはぎです。

「サロン・あべの」12月の出会いは、「1 うなぎの老舗だけあって「う

に健康、2に健康、 まき」は、ボリユームがあり、ま

3・4がなくて5に ったりとしたタレとの調和は格

達者」と題して、チン 別の味わいでした。

電・天王寺駅前駅近 「こはぎ」は、もうひとつの名

くの和食処「双葉」で 物「おはぎ」を小振りにした一口

お昼をこいつしよし サイズのもので、食後にいただ

ました。 く量としては申し分なく、甘味

「双葉」は創業昭和 の人気メニューです。

20年、老舗の香り漂 お料理をいただきながら、み

う純和風のうなぎと なさん、今年の出来事や近況な

おはぎで有名なお店 だにぎやかに、和やかに会話が

です。 弾みました。

この日の昼食は、 師走に入ったこの日は、少し

特別メニューの定食 風があつたものの良い天気にな

です。テンプラ(え りました。久しぶりに参加して

び・野菜)、お造り(2 いただいた方、毎度おなじみの

種)、うまき、赤だし、 方、みなさんの元気な笑顔に出

漬物、デザート、ご飯 会うことができました。おいし



特別メニューの定食

いお料理で満足の(サロン・あべの)12月の出会いでした。

(参加者7名 山村貴司)

食後のコーヒーを楽しみながら、みなさんにお書きいただきました。あんなこと、こんなこと。

○(サロン・あべの)には、去年同様今年も半分ぐらい参加してきましたかと思えます。

仕事では、大きな変化があつ

た年でした。今年の1月より約

20年いた技術部からやくざみた

いな購買部へ移籍になりました。

仕事にも慣れ、さあ、これから頑

張ろうと思つていたら7月より

今度は生産技術部に変えられま

した。今の部署は、長年いた技術

部と同じような仕事なので、こ

のまま定年まで行けるのではと

思つています。来年も仕事・子育

て・(サロン・あべの)に頑張り

ます。 加賀谷 正

○久しぶりに(サロン・あべ

の)に参加。12月のサロンは阿倍

野筋にある和食「双葉」。おいし

い料理と参加者の方々とのおし

やべり、楽しく過ごせました。

窪田 新一

○今年1年は本当にいろんな

事がありました。1月〜6月ま

では、仕事の事で後任の人に仕

事を教える日々でした。後半は、

母とぼくが病院通いの日々で

した。特に10月からの2カ月間

は、ぼくの入院とか手術とかで

大変でした。今は、ぼくはよくな

りましたが、母が検査の日々で

す。来年こそは、元気で1年過ご

せませすように・・・ 久木 浩

○私の母が入院してから1年

たつて、本当に早いです。今年も

(サロン・あべの)の忘年会に参

加させていただきました。1年

は、早いもので、また一つ歳をと

ります。来年も(サロン・あべの)

へ行かせていただきます。

倭 栄司

○今年1年、あつという間に

過ぎた1年でした。仕事が忙し

く大変でしたが、乗り切ること

ができるように頑張つていきたく

いです。体が疲れきみですが、師

走に入つてサロンの昼食会で皆

さんとお話ができてよかったです。

山村 貴司

○久しぶりに来ました。もつ

と多くの人たちに出会えるかと

楽しみに思つていましたが、少

なくてちよつと寂しかったです。

また、みなさんに会いにきます。

山本 篤江

○昨年の秋に右腕を骨折して、

約半年サロンを休みました。ま

た、今年の夏は暑さに体調を崩

したりして、気持ちばかりが焦

る日々でした。秋になつてよう

やく落ち着いた気分になつたと

思つたら、早や師走。サロンの昼

食会でみなさんにお会いできて、

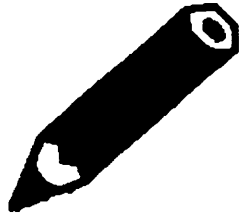
よかったです喜んでいきます。今年

1年、みなさま方にはいろいろ

とお世話になりました。ありが

とうございました。富田 慶子

42



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者自立生活の変遷 ①

障害者の自立生活を支える介護制度は、2003年の障害者支援費制度の導入に始まり、2006年には障害者自立支援法の開始というようにめまぐるしく変わっています。障害者自立支援法以後、障害者の自立生活はどう変わったのだろうかという私なりの素朴な疑問のもとに、昨年の夏、東住吉区の障害者自立生活センターナビ代表の川嶋雅恵さんにお話を伺いました。その報告をする前に、今回はナビの母胎である中部障害者解放センターのこれまでの自立生活への取り組みを説明させていただきます。

中部障害者解放センターは、大阪青い芝の

会の障害者とその障害者を支援する介護者によって、1984年に設立されました。1970年代の障害者は外出することをはじめ地域で生活することも困難でした。その中で、大阪青い芝の会の運動は、「そよ風のように街へ出よう」をスローガンにした「こんにちは訪問」という障害者在宅訪問活動で、障害者の外出を援助しながら、自立生活運動の仲間づくりを展開していきました。

「こんにちは訪問」で出会った在宅障害者の厳しい生活実態を通じた活動の中で考えられた自立とは、自己の主体性による自立と障害者の権利を取り戻す社会的自立でした。経済的側面だけを考える労働の価値を否定し、日々生きる行為が重度障害者にとっての労働であり、主体性をもって生きるのが自立であると考えられました。また、長く社会に存在する障害者の生命を脅かす差別に自ら気づき、抗議していく、すなわち自己主張していくことが社会的自立であると考えられました。その運動の中から生まれた自立生活の先駆者たちは、障害者主体の意識をもち、単独で生活保護を受けながら自立生活を始めました。しかし、公的な介護やその他の保障がまったくない中で、ボランティアだけに頼る介護は確保することが困難であることや常時介護の不足の問題を引き起こし、自立できる障害者は一部に限られました。多くの障害者が自立できるようにと、1984年、作業所と

しての中部障害者解放センターが設立されました。センター設立にあたっては、自立生活を志した重度障害者のAさんへの支援活動が契機の1つでした。

Aさんは常時介護をしていた母親が入院したので、自立を決意しましたが、30年間親がかりで生活経験にも乏しく、食事をする時間や薬を飲む時間など、その他多くのことに責任をもたなくてはならなくなり、精神的にも負担がかかった事や地域で生活していくには介護や住宅保障の基盤が少なかつたことが原因で自立を断念しました。このような中では、親が介護できなくなると、施設の選択しかありません。障害者自身の生活能力と社会基盤の必要性とともに、このような施設か自立かの二者択一の状態を変えるためにも、段階的な自立を行うためのケアの機能を備えたグループホームが必要であると実感されました。

1989年、入居者4名、職員4名、パート3名、ボランティアという構成でグループホーム「とんとんハウス」が開所されました。センターの作業所は、在宅障害者やグループホーム入居者の生活という本来の機能に加えて、自立生活を志す障害者のための宿泊体験プログラムが実施されました。それらの実践は、Aさんの自立生活への挫折を教訓にして、障害者が十分時間をかけて、段階的に自立生活に取り組むための支援活動でした。

(定藤邦子)

回る時間と過ぎる時間

断酒会という集まりがある。アルコール依存症者の自主的な会(自助グループ)である。その会で作られている体験記を読んでいる。ふと気づいたことがある。全部とは言わないが、多くの体験記はいかに自分が愚か

であったか、自らの飲酒でどれほど家族を苦しめたかを綿綿(めんめん)と述べている。文章の最後までその調子であることがしばしばである。読み方によつては無限に自己を責める救いのない物語なのだ。

では、そんな絶望的な文章を書く人が集まっているのだから断酒会というのはさぞ暗い集まりだろうと思うと、そうでもない。私が訪問したかぎりにおいては明るい雰囲気であることが多い。ユーモアたっぷりに話す人がいれば、自分の体験を笑い話のように話す人もいる。文章と実際の集まりの落差が面白い。

実は、この一年間、私はオーストラリアからきた人類学者と研究の目的でいくつもの断酒会の集まりに参加した。彼にとつて印象的だったのは、この集まりのなかに多くの笑いがあったことだという。オーストラリアのアルコール依存症者の集まりには、これほどの笑いはないようだ。もちろん、これは個人がもった印象にすぎないので正しいとは限らな

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

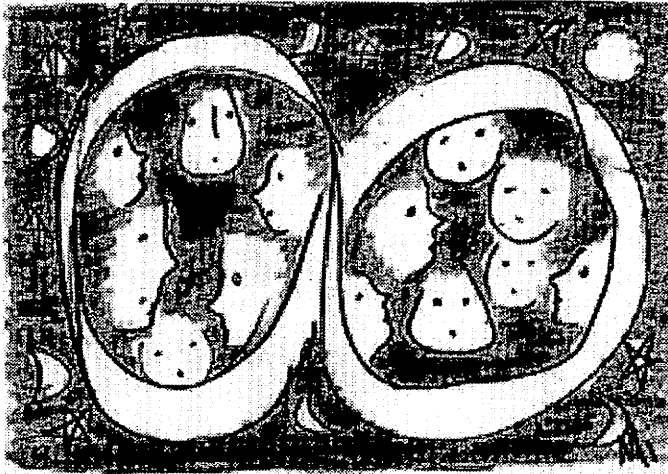
ほんの少しの
神に近い部分

700円

いだろうが、もし正しいとすると、いろいろなことが考えられる。

というのも、オーストラリアを含め、欧米のアルコール依存症者の自助グループで語られる物語には一つの形があることが知られている。そこには苦しみを経て後、最後はグループによつて救われたという喜びが語られる。そこにはキリスト教の影響があり、まさに「神を賛美します」で終わる信仰告白と同じ筋書きなのである。

「神を賛美します」というとき、そこにユーモアが含まれていたとしても、厳かさが先に



くるだろう。断酒会で私が見たような、ワツハツハという笑いとは、あまり縁がないような感じである。

日本の断酒会にも「断酒幸福」という言葉があり、その集まりで「酒をやめた幸せ」が語られることもある。しかし、それは、いわば「ほのぼの」とした幸せであって、信仰のエネルギーで燃えているキラキラした至福感ではないようだ。

単純な比較はできないが、その背景には時間の感覚の違いがあるのではないかと考えて

いる。日本人の時間感覚は基本的には循環であらう。春夏秋冬、季節が回ることによって時間を感ずる。そして永久に続くものは何もないという無常観がそこに伴う（この場合、もつと感覚的な無常「感」というほうが確

だらうが）。

一方で、キリスト教を基盤とした欧米人の時間感覚は、始まりがあつて終わりがあるという直線形だという。そこでは段階的な発展や人間の成長が強調され、飲んで酔っぱらつた過去は回復した現在までの道のりとして語

られる。したがって過去はいつでも循環的によみがえってくるものではない。

断酒会に集う人々は「酒をやめても、それ以後の人的な成長がない」と自らを批判することがある。しかし、循環的な時間に日本人が生きているのなら、いつでも現在の裏側に潜んでいる過去がよみがえらないように、同じように同じ体験談を語り繰り返すことも一つの形ではないだろうか。成長しないのではなくて、薄氷の上を反復する祈りをもって歩む姿かもしれないのである。

(知)

さきみみずき

年賀状

あけましておめでとうございます。

昨年はいろいろとお世話になりました。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。今年は干支の始まりの「子」年、いただいた年賀状にもいろいろな「ねずみ」が描かれていました。が、同じ図柄のねずみが1つもなかったこととミッキーマウスが多いかという予想もはずれたことで、日本人のねずみ観の豊かさを感じました。その中で見ごたえのある年賀状は、それぞれの生活報告が書かれたものや写真入りでした。喜寿を迎えられ、なお、お仕事に熱意を持っておられる先生、転勤先から自宅に戻られた方、家族で留学される先生、家族の介護で離職された方、久しぶりに会いたいねと書いてくださる方、地域の文化や環境などについてのお話などいろいろな内容の文面を拝見してその人柄を感じました。そして、ありがたいのは写真、一目瞭然です。ご家族の笑顔が新春の喜びを伝えてくれます。また、結婚式の晴れやかなお2人そろっての写真も良いものです。「素敵な伴侶を得られて良かったね、お2人そろってサロンに来てね」と思わず呼びかけたくありません。そして、なによりうれしいのは、お子さんの誕生写真や成長された写真。かけがえのない命を守り育まれている姿が目に見えます。強いお母さんになって、肝っ玉かあさんになってとエールを送りたくなります。サロンの世代が3世代になっていく様子はなんとも心強いものです。1人1人はつながりがなくても、どこかでサロンとつながっていることを知っていただき、サロンネットワーク活用ができればいいなあと年賀状を前に夢見ました。(け)

Mai スウェーデン 留学記 16

冬のロシア②ーモスクワ編ー

ゴツ ニット オール！ あけましておめでとうございます。みなさまにとつて、素晴らしい1年となりますように・・・そして、今年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、前回からのロシアへの旅は、いよいよ首都モスクワへ向かいます。サンクトペテルブルクから飛行機であれば1時間ほどで到着することができますが、バスで600kmの距離を走ります。夜行バスで大人しく眠り、朝早くモスクワ郊外のマクドナルドで朝食をとり、モスクワの有名なホテル、ウクライナホテルに到着しました。マクドナルドのきれいな店員さんは朝早くに大人数の外国人

が押し寄せ、大忙し

になりおま

けに英語を

喋らないと

いけない状

況にとても

不満そうで

したが。

初めて見

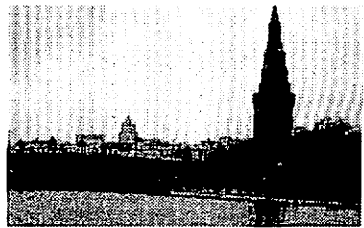
る朝のモス



モスクワ大学



モスクワ市内（モスクワ大学前から。モスクワ市内を一望できます）



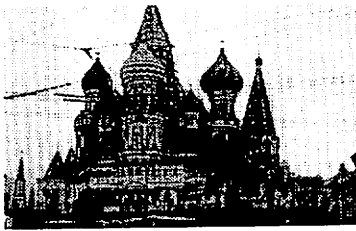
モスクワ市内（一番奥に見えるのがモスクワ大学。横に見える塔はクレムリンの塔。赤の広場前から）

クワの景色に驚きました。高層ビルが立ち並び、派手な大きい看板そして溢れるキリル文字。物価もとても高いです・・・去年は世界一物価の高い都市に輝いた都市です。とても近代的な印象を受けましたが、赤い塀で囲まれたクレムリン、古い寺院もたくさん並ぶ、現在と古い街並みが混在しているような街でした。少なくとも私が行った2年前は。

観光地で観光バスが停車すると、それを見て、ロシアの代表的なお土産、毛皮の帽子をたくさん持った男性が近づいてきます。彼らは観光客にお土産品を売り付けるのです。私はすべて「ニエット（ノー）」と断るのです。まだ11月末でしたが、スウェーデンと比べると雪が多く、室内は夏のように暑いのに、1歩外に出ると肌が痛くなるような寒

さなのです。だからスペインからの留学生達はその毛皮の帽子に飛びつきました！スペインでかぶることは決してないように思うのですが、でも彼らは、ロシアのたくさんの雪や氷に大はしゃぎ。早速買った毛皮の帽子をかぶり大喜びしていたとき、私のスペイン人の友人は、「あつ、壊れた」・・・せっかくの毛皮の帽子の耳当て部分が無残にも取れていました。

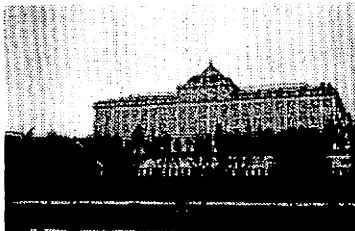
ロシアといえば、世界のトップレベルにあるポリシヨイ・バレエ。このバレエをモスクワのポリシヨイ劇場で観られるチャンスを得ることができ、フランス人の友人やスペイン、ドイツの友人達と早速夜に出かけました。少し早めにホテルを出発し、メトロに乗りました。モスクワのメトロの駅は各駅が美術館のような素晴らしい装飾をしています。



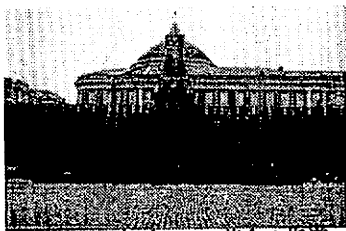
聖ワシイリイ教会
(赤の広場前から)



救世主ハリストス大聖堂



大クレムリン宮殿 (クレムリン内の宮殿。赤の広場から)



レーニン廟 (ロシア革命の指導者、レーニンを凍結保存した壺廟。年々廟を訪れる人も少なくなっている)

クスツと笑い、「全部ピロシキよ」と後ろの棚に並べられたピロシキを指してくれました。中に入っている種類を言え、ということでした。「じゃあお肉。」と注文して、温かいミート・ピロシキと紅茶「チャイ」をいただきました。おながが減っていたのもあってすごく

クレムリン周辺やグム百貨店をウロウロして、ポリシヨイ劇場へ。約3時間、シエークスピアの作品の中で唯一の喜劇、「真夏の夜の夢」が上演されました。シエークスピアが大好きで、その作品をほとんど読みつくしていた私は、どんな風にバレエで表現するのとてもワクワクしていました。初めて踏み入れた国立ポリシヨイ劇場は廊下に敷かれた赤い絨毯が目に見えました。でも興奮していたのは、私とフランス人の女の子くらいで、あの男の子達は興味なさそう。案の定、ほかほかと暖かい劇場で、気持ちよくなったのか始まってすぐに1人ずつ眠りの世界に入っているっていました。バレエの演技に演出も本当に素晴らしく、上手にシエークスピアの世界を表現しており、その世界に引き込まれます。時間を忘れた素晴らしいひと時でした。

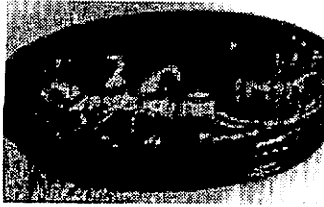
「クレムリン」はロシア語で「城塞」の意味ですが、もともとは旧ロシア帝国の宮殿です。現在も大統領官邸などが置かれているロシアの政治の中心の場所です。中に入るには、とても厳しいセキュリティチェックを受けなければなりません。クレムリンの前には「赤の広場」が広がり、壮大な印象を与えます。実は「赤の広場」、ソ連の社会主義という意味ではなく、もともとロシア語で「赤」というのは「美しい」を意味するものです。夜になると赤の広場前はライトアップされ、ほとんどの教会はみんなライトアップされ、暗闇に浮かび上がります。クレムリンの塔の「赤い星」も輝きを放ち、恐ろしいほど美しいのです。

赤の広場にあるレーニン廟にも行ってきました。ロシア革命の指導者、レーニンの霊廟です。ここに入るのもクレムリンに入るのと同じくらい、並ばないといけない上にセキュリティチェックも受けないといけないので、レーニンを崇拜する人が確実に減ってきており、以前よりは訪れる人も減り廃れた観光名所になりつつあるのですが、それでも寒い中1時間は待たされ、すっかり体が冷え切ってしまった。レーニンの遺志に反して、遺体を保存したスターリン。ただ当時のことを多くの人に伝えるために、レーニンは今も静かに訴えているような威圧感を放っていました。

寒さと空腹で死にそうになっていた私達は、赤の広場の近くの小さな軽食堂に入りました。英語のメニューなんてないので、わからないままに注文。私はボルシチのほかに唯一知っていた食べ物、「ピロシキ」を注文しました。これならロシア人にも通じるはずと。思っ、「ピロシキ」と言うと、店員さんが

美味しく、知っているロシア語が通じたのもあって、これも楽しい時間でした。

その後、少し観光をするため、また寺院を見学しに行きました。ロシア正教の素晴らしいアイコンときらびやかな内部。アイコンに丁寧にお辞儀をしている信者を見ると、観光として入るべき場所ではないような気分になりました。すぐに外に出て、みんなを待っているドイツ人の友人がボソツと「宮殿や教会にお金を使い込み、でも街には貧しい人達がたくさんいる。もつとお金を使うべき場所がたくさんある。こんな国は嫌いだ」と言っていたことを聞き逃すことはできませんでした。現実的にはまだこの国は福祉に目を向けるほどそこまで発展してはいけません。国民は声に出して訴えることはできないのです。複雑な思いが今も私の心の中に残ったままです。



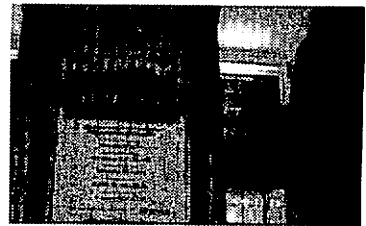
パレフ塗りの小箱
(トロイカの様)

夕方、モスクワ市の露天市場に出かけ、お土産探し。私のお目当てはパレフ塗りの小箱。ロシアの伝統工芸の1つです。日本の漆塗りによく似た感じですが、黒塗りに細かい絵が描いて

あり、その素敵な色づかいが大好きなのです。早速、小箱を売っている露天市場のおじさんは、「これはいいだろう？」と小箱について語り始めました。「これを買ったらマトリョーシヨカをおまけにつけてあげるよ」と言って立派なマトリョーシヨカ人形を私の前に置きました。実はマトリョーシヨカは母が学生時代にロシアに行ったときに買ったものであつたので、私はそれほど欲しくはなかつたのです。だから少し考えていたら、おじさんが「じゃあもう一つつけるから、どうだい？」と言ってまた同じ大きさのマトリョーシヨカを置いてくれました。私がOKを出さなかつたら永遠にマトリョーシヨカが増えそうな気がしたくらいだったので、トロイカの小箱を1つ手に取り、マトリョーシヨカ2体で手を打つことに決めました。「スパシーバ（ロシア語でありがとう）とだけ言って、慌ててみんなのところに戻った私に、「マトリョーシヨカを買ったの？」と友人達が聞いてきました。「いいえ。買ったのはこの小箱だけ。マトリョーシヨカはおまけなの」と答えた私にイタリア人の友人が、すっこけそうになつていました。彼は粘りに粘って一生懸命お店の人と交渉したのに、1つもまけてくれなかつたらしくふてくされていたのでした。今もそのマトリョーシヨカは私の家で当然

のような顔をして居座っています。次に欲しかったもの、プラトーク（ロシアン・シヨール）を求めにお店を見て回りました。ちようどそのとき

私は母のお土産であつたロシアン・シヨールを寒かつたので頭に巻いていたので、もう一枚を求めて探していました。そのお店はおばあさんがきれいなプラトークを見せてくれました。相変わらず2枚でとても迷っていた私を見て、おばあさんが「2枚なら1枚と同じ値段にしてあげる」と言ってきました。私の頭に巻いてあるプラトークに目をとめ、「そうそう。あなたのは、きつと上等だね。もう少し値段が高かつたと思うよ」と。ロシア語でしか喋ってくれませんでした。身振りや一生懸命伝えてくれたので、なんとなくわかりました。結局迷った末に、1枚の黒地にキレイな花柄の模様があるプラトークを選び、おばあさんに「スパシーバ」と丁寧にお礼を言つて私のロシア土産選びは終わりました！



ボリシヨイ劇場前（シェークスピアの「真夏の夜の夢」を上演）

お知らせ

＜サロン・あべの＞2月の出会い

内容…心の健康づくり

—うつ病とストレスについて—

お客さま…高岡啓子さん(大阪市阿倍野区保健福祉センター・地域保健福祉担当係長、精神保健福祉相談員)

日時…2月16日(土)午後1時～4時

場所…育徳コミュニティーセンター2階
研修室(スロープ・車いすトイレ有)
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL 06-6621-1901
最寄り駅＝

地下鉄御堂筋線「西田辺」
下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)

—「市民フォーラムおおさか」協働事業—

—昨年まで、ボランティア・NPO・企業・労働組合・行政が一体となって開催されてきました「市民フェスタおおさか」が衣替えをして、「市民フォーラムおおさか」として第2ステージに進みました。

これは、これまで1カ所で開催されていたお祭りのイベントから「地域」を軸に、住民の様々な活動を考え、誰もが住みよいまちづくりの実践を共有していこうというものです。

この活動に、＜サロン・あべの＞は豊かなコミュニティづくりと地域の人たちとのつながりを考えたいと思い、＜サロン・あべの＞2月の出会いは、「市民フォーラムおおさか」の協働事業として参加しています。

夜一緒にピザを食べながら、フランス人の友人は「この旅は素晴らしかったわ。いろんな国籍の人と友達になれたし」と満足そうに言っていました。本当に彼女の言うとおり素晴らしいかったです。・・・なかなか朝起きない彼女を起こすのに私はかなり苦労したのですが、良い思い出です。

ロシア人の友人達は「ロシアは毎日変化している」と言います。どんどん高層ビルが立ち並び、昔のロシアらしい建物が少なくなってきたのを見ています。私が行った2年前よりはるかに変化している様子が伺えます。

す。ただ私が見たのは、広大な領土を持つロシアのほんの一部にすぎません。次にロシアを訪れる機会がもしあれば、せめてキリル文字を読めるように、少しでも多くのロシア語を学んでから訪れたいものです。

教えてもらった数少ないロシア語が通じた喜びとたくさんの方の国の人と友達になれたこと、人と人との繋がりを感じた喜びをスウェーデンに戻って早速、一番仲の良いロシア人の友人に報告していました。「無事に戻ったよ！ 私はロシアも好きになったよ！」と。

(清原 舞)

カンパ、切手・はがき・お茶・お菓子の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございました。

K・R、カスターネット、相嘉彩子、伊佐常和・悦子、今西美奈子、大和田弓子、岡賀寿子、黒羽玲子、神城昭子、小西京子、坂上けい子、照井邦子、長島伊津子、野村嘉寿子、長谷川麻美子、平岡太、藤沢八重子、町野旬子、宮寄徹朗、弥勒真希、森輝代、森芳江、山本鈴子、山本敏子、吉原和郎、芳村和子、その他の方々。(敬称略)

ありがとうございました。



「トイレOK」マーク

このコーナーでたびたび住吉区のアクションプラン高齢者・障害者部会の活動について報告してきました。この部会では第2金曜日を

美智子のこんな話

岸田美智子

定例会にして活動を続けてきました。高齢者や障害者が外出のときに困るトイレ問題について、提供していただけるトイレに部会のメンバーが訪問して、「トイレOK」マークを広めていく活動を進めてきました。この運動も約1年たち、次の段階に進めていこうと話し合いをしています。

「トイレOK」マークはいかがでしょうか
 新年おめでとうございます。読者のみなさんは、どのような年末年始を過ごされましたか？ 今年のみなさんにとってどんな年になるのか？ ワクワクしたいものですね。
 今年も私達障害者にとっても、より良い生活を

実現するためにいろいろ行動してゆきたいものですね。昨年このコーナーでたびたび住吉区のアクションプラン高齢者・障害者部会の活動について報告してきました。この部会では第2金曜日を

集まってきたトイレの情報をマップに作っていますが、このトイレマップをどうやって高齢者や障害者に使っていただけるかを考えています。その方法として、すでに住吉区の情報誌「JOM」にも掲載されていますし、住吉区の広報にも掲載されていますが、今後は地下鉄の駅などにもおいているボランティア情報誌「COMVO」にも掲載されることになりました。また、1年に1度各家庭に配られる「暮らしの便利帳」にも掲載を呼びかける予定です。そして、車いすではスペース的に使えないが、歩行できる高齢者・障害者なら利用できるトイレもあり、この情報をどうするか・・・という課題が出てきます。この課題については、また違うマークを作っていく区別できるようにして、掲載してい

う、という意見も出ています。そして、9月にトイレ調査の拡大キャンペーンを行いました。残りの104箇所についても、部会のメンバーで分担して2月頃までに調査することになりました。そして、この「トイレOK」マークが実際に高齢者や障害者のみなさんに役に立っているのか、実際に使ってみてどうだったのかという当事者の体験レポートを集めていこうということになりました。(サロン・あべの)の読者のみなさんの中で実際にこの「トイレOK」マークのあるトイレを使った体験や、まだまだこのシールが目につかないし、足りないぞ！ などの声をお聞かせください。「まいど」の岸田まで、お待ちしております。

〔連絡先〕

自立生活センターMYDOWまいどく

担当者 岸田美智子

大阪市住吉区長居西1-9-12

TEL 06-66609-3133

FAX 06-66609-3210

メール cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp



2月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」2月の出会い＝「市民フォーラム
おおさか」協働事業

日 時：2月17日（日）午後1時30分～4時
内 容：地域との共存で手作りこんにやくを作り
続けて半世紀
ゲ ス ト：狭川一三氏（日本の風土が生んだ優れた
伝統食品を作り続ける淀川区三国、手作
りこんにやく屋さん）
会 費：なし
場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」2月の出会い

日 時：2月23日（土）1時30分～3時30分
内 容：サロン デ 手芸
-ハート型の「におい袋」を作ってみませ
んか？ かわいいインテリアの一つにな
ります。是非ご一緒に作りましょう！-
ゲ ス ト：古井宏子氏と「姫島手作り」の皆さん
会 費：なし（但し、材料費として¥100）
場 所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎ 06-6494-0635
中本 ☎ 090-9864-9678

■サロン「アイ」2月の出会い

日 時：2月9日（土）午後1時30分～4時
内 容：お花とすごすティータイム、自分だけの
リラックス
ゲ ス ト：岩佐敦子氏（生野区社会福祉協議会主査）
会 費：なし

場 所：「おかちやま」2階多目的室
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎ 06-6757-8574

■「サロン・にし」2月の出会い＝「市民フォーラム
おおさか」協働事業

日 時：2月9日（土）午後2時～4時
内 容：手話と手話うたで、レッツ地域コミュニ
ケーション！-老若男女みんな集まれ-
ゲ ス ト：片山晃江さん（「花実」）
場 所：西区在宅サービスセンター「にしながほり」
大阪市西区新町4-5-14
☎ 06-6539-8075
会 費：なし
問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■《てくてく・すみよし》2月の出会い

日 時：2月9日（土）
内 容：イベント「福袋」
申し込み：参加ご希望の方は山本篤江までお申し込
み下さい。
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎ 06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」2月の出会い＝「市民フォー
ラムおおさか」協働事業

日 時：2月3日（日）午後1時30分～4時
内 容：良いマナーとは-貴方のご意見を-
ゲ ス ト：横田圭二氏
場 所：鶴見区民センター3階
会 費：なし
問い合わせ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）
奥井 ☎ 06-6913-7070

■「サロンいたみ」2月の出会いはお休みです

晴れのち晴れ-112-

稲垣恵雄

□母と子年生まれ

平成20年(2008年)の新しい年が明けました。みなさんは希望に胸ふくらませて新年をお迎えになられたことと思います。

さて今年の干支は第1番目に位する子年です。子年は北の方角を表し、また昔の時刻の名前で真夜中の12時ごろを指します。いわゆる子の刻のことです。

干支でその人の性格が分かるとよく言います。ある書物に寄りますと、子年生まれの人はとても正直で常に儉約して貯蓄心に富み、相応の財産を保っているが、人によってはその度を越して吝嗇に陥り、世間の非難を受ける



こともあるそうです。

みなさんの中にも子年生まれの人がおられるでしょうが、私の母・文子も子年なんです。母は大正元年生まれなので今年で96歳になります。10年ぐらい前から認知症になり、ほとんど何も覚えていないようです。時々実家の母に会いに行くのですが、私の顔を見ながら「あんた、誰や!」と言われること

がちよっぴり悲しく思います。でも母は小柄な身体でいつもにこにこしているので、お世話になっているヘルパーさんから「文子さんは、いつ見てもかわいいねえ」と言われているのが何よりの救いです。

これまでの母をふり返ってみますと、前述の書物に書いてあるように子年生まれの性格にぴったりどころがあり、「なるほどなあ」

と、1人で頷いています。

みなさん、この1年もどうかよろしくお願いたします。

寄りみち



今号からこの欄で「童謡♪絵はがき」にまつわるいろいろな話をさせていただきますので、しばらくの間おつきあいください。

■童謡♪絵はがき・たこのうた。凧揚げが遊びとして大ブレイクしたのが江戸時代。奴の絵凧もそのころに流行。「奴」というのは元々は家つ子が語源で、江戸時代では武家の奴僕の人達のことを指した。当時、虐げられていた江戸の町民たちが蔑まされていた奴の絵凧を武家屋敷の上に飛ばし、低い身分の奴が、お偉い武士を見下ろしちゃうぜ「ざまあみろ」と、爽快気分感を奴凧を揚げることで味わっていたらしい。まさに江戸版ストレス発散!といったところでしょうか。(石)

<サロン・あべの>VOL. 259 発行:平成20(2008)年1月19日 定価¥100
 編集人:<サロン・あべの>運営委員会 表題:中西利香・筆 文中イラスト:石田美禰子
 事務局:〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座:サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷:セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 ホームページ: <http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/> 「サロン あべの」でも検索できます